

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

農学部

部局長名：

木村 吉伸

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
I 入試関連 1 一般選抜前期日程において引き続き志願倍率2.0倍以上を維持する。 2 後期入試廃止に伴い学校推薦型選抜の募集定員を9名増員したが、引き続き志願倍率2.0以上を維持する。そのためにも岡山市内の高校訪問を行い志願者の獲得に努める。 3 学校推薦型選抜の日程に変更した私費外国人留学生選抜にSDGs入試を導入し、外国人留学生の受入を進める。 4 「開発目標(SDGs)に貢献する人材養成国際農学プログラム(GAP)の構築」への国費留学生4名の受入を維持する。DX活用による海外選抜実施を継続する。留学生4名について、入学前教育を着実に実施する。 II 教育関係 1 対面授業での新型コロナ対策を徹底するとともに、オンライン授業との併用により、リスクを最小限に抑えつつ実践型講義・演習・実験も含め効果的な教育を行う。 2 「地域活性化システム論」、「農家体験実習」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市SDGsを目指す産業界実習講座」、「日本農業論I,II」を開講し、実践型社会連携教育を推進する。 3 TA, SA制度、学生相談制度、アカデミック・アドバイザー・アシスタント(AAA)制度を活用し、留学生も含め学習に困難を持つ学生支援を強化する。 4 授業の質向上に向け、シラバスの点検・見直し、ガイダンスおよび履修指導体制の確認、FA研修会とピアレビューを活用した教員間の教育手法交流を行うことで、教育活動に関し理解し実践すべきことを確認し、研修活動の一環とする。GDPとの連携を推進する。 5 外部・内部評価による教育の質保証のため、父兄懇談会、授業評価アンケート、卒業生アンケートを実施、分析し、行動計画を検討する。 6 上記の取り組みを通じて、卒業時学生満足率90%以上、大学院進学率の向上、就職率95%以上、休学・退学率3%未満を目標とする。	2-1-3 2-2-2 2-2-3 4-1-3 2-1-1 3-1-2	I 入試関連 1 一般選抜試験において志願倍率3.0倍を達成した。 2 学校推薦型選抜Bについては、岡山市内の高校訪問を行い志願者の獲得に努め、受験倍率2.0倍を維持した。来年度は、更に積極的な高校訪問やHPを通して志願者の獲得に努める必要がある。 3 私費外国人留学生選抜にSDGsの内容を盛り込んだ入試を実施した。3名の志願者があり、2名の合格者を選抜した。 4 「開発目標(SDGs)に貢献する人材養成国際農学プログラム(GAP)の構築」については、海外選抜により国費留学生4名を2期生として受け入れ、入学前の農学教育を実施している。現在、農学部には11名(国費8名、私費3名)の留学生が在籍している。 II 教育関係 1 全学の方針に従って、1,2学期は新型コロナ対策を徹底した対面式授業とオンライン授業との併用、3,4学期は対面式授業を中心に効果的かつ安全性の高い教育を推進した。 2 新型コロナ対策を十分に講じ、実践型社会連携教育「地域活性化システム論」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市SDGsを目指す産業界実習講座」、「日本農業論1,2」を実施した。 3 それぞれの学生の特性に応じてTA, SA制度、学生相談制度、アカデミック・アドバイザー・アシスタント(AAA)制度を活用し、学生支援を行なった。 4 授業の質向上に向け、シラバスの点検・見直し、ガイダンスおよび履修指導体制の確認、ピアレビューを含む3回のFD研修会を実施した。 5 教務FD委員会を中心に、保護者懇談会、授業評価アンケート、卒業生アンケートを実施し分析を進め、改善点について検討した。 6 卒業時学生満足率は90%、大学院進学率は前年度50.8%であったが今年度は53.8%と向上、休学率は1.8%、退学率は0.2%で目標を達成している。就職率は2月末時点では89%であるが引き続き未回答者からの回答を収集する予定である。
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
1 新型コロナウイルスによって遅れていた研究活動を、感染対策を維持しながら活性化させる。 2 科研費申請率、新規採択件数、獲得金額を増やすため説明会などを実施し、科研費申請率の目標を100%、科研費新規採択率の目標を50%、科研費獲得金額の目標を124,000,000円とする。 3 共同研究および寄付金獲得のために企業等との連携をより強化し、共同研究費受入件数の数値目標を25件、共同研究費受入金額の目標を15,000,000円とする。また受託研究費受入件数の目標を20件とする。 4 論文数を110本、国際共著論文数を40本、国際共著率を35%及びQ1ジャーナル投稿数を40本をそれぞれ目標値とする。 5 異なるコースの研究ユニットあるいは異なる学部との共同研究推進を図る。また、公的研究機関や企業との交流を促進させることで、異分野融合研究の推進を図る。ARTセンターと連携し、生殖補助医療技術を含む生殖科学に関する研究活動を推進する。 6 SDGsを推進する研究をさらに展開する。 7 農学系地域産業の活性化に向けた研究プロジェクトや支援研究を推進する。 8 科研費講演会やその他の外部資金獲得に向けた研修会をURAとの連携で行う。	8-1-1 8-1-2 8-2-1	1 新型コロナ禍においてBCSで承認を行った研究活動に対し感染対策を維持しながら活性化させた。 2 科研費申請率、新規採択件数、獲得金額を増やすため説明会を実施した。科研費申請率は96%、科研費採択率は41.1%(R4)(R3:30.4%)と上昇した。科研費獲得金額は現段階で未発表である(令和4年度直接経費+間接経費)。科研費新規応募率が81.36%となったことは今後の課題である。 3 共同研究および寄付金獲得のために企業等との連携をより強化し、受託研究・共同研究費受入件数37件、受入金額114,782,212円(前年比145.6%)を達成し、受託研究・共同研究費受入件数と金額はともに目標を著しく上回った。内訳は受託研究は15件、金額92,496,212円(前年比140.3%)、民間等との共同研究は22件、金額22,286,000円(前年比172.3%)であった。 4 論文数87本、国際論文81本、国際共著論文数35本、Q1ジャーナル投稿数32本となり、目標を下回ったが、国際共著率は36.78%となり目標値を上回った。 5 異なるコースの研究ユニットあるいは異なる学部との共同研究推進を図った。また、岡山県研究機関や企業との交流を促進させ、異分野融合研究の推進を図った。ARTセンターと連携し、生殖補助医療技術を含む生殖科学に関する研究活動を推進した。 6 真庭市と連携してSDGsを推進する研究連携を展開し、宿泊研修も実施した。 7 農学系地域産業の活性化に向けた公開シンポジウム「学士農業者のステューデンター・起業家」地域活性化システム論2回「都市養蜂とSDGs:農業を通じた地域活性化」および「地域産業としての養蜂と今後の可能性」を実施した。これらは農学系地域産業の活性化に向けた研究プロジェクトや支援研究を推進するほか、SDGsの推進にも直結した取組であり目標を達成し、優れた成果をあげている。 8 科研費講演会やその他の外部資金獲得に向けた研修会をURAとの連携で行った。
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
1 新型コロナウイルスの感染終息が見られない中、生鮮食品を供給するFSセンター販売所や各種イベント等での農産物販売を、感染防止・拡大予防策を十分に講じて、教職員・学生・一般市民の安全・健康が担保される環境のもとで、3密を避ける販売形態により実施する。新鮮で安全・安心な農産物を提供するとともに、SDGsにおける食と農の重要性を社会へ発信する。 2 「中四国大学連携フィールド演習」等の双方向型の講義・実習科目を感染防止・拡大予防策を十分に講じて、可能な範囲で実施することにより、地域活性化に貢献する。 3 農学部フェアと同時開催の収穫祭における学生支援を、感染防止対策を十分に講じて行う。 4 グッドジョブセンターとの連携を強化し、引き続き「農業による福祉的雇用の促進」・「福祉的農業の確立」のためのプロジェクトを推進する。 5 農学部主催の公開講座においては、新型コロナウイルス感染防止・拡大予防策を十分に講じて、児童・生徒あるいは一般市民に対して、農学のフィールドを実際に体験する機会を提供するとともに、農学とSDGsの広報に努める。		1 BCSの策定により感染防止対策を十分に行って、FSセンター販売所や各種イベント等での農産物販売を通じて、一般市民・学生・教職員へ、新鮮で安全・安心な農産物を提供するとともに、SDGsにおける食と農の重要性を社会へ発信した。 2 「農家体験実習」は農家への宿泊をお願いするため、感染防止・拡大予防の観点から中止とした。「中四国大学連携フィールド演習、牧場実習」は宿泊をホテルとし、オンラインを併用して開講され、農学の普及啓発に貢献した。コンソーシアム岡山/全学開放科目「農場体験実習」は台風の接近により、2日前に中止と判断した。 3 農学部フェアと同時開催の収穫祭における学生支援を、BCSを策定し感染防止対策に配慮して行った。模擬店出店、搾乳体験企画、羊飼い体験企画、研究室紹介、ステージ企画等、BCSを策定し感染防止対策に配慮して実施した。 4 グッドジョブセンターとの連携を強化し、農業による福祉的雇用の推進した。 5 BCSの策定により感染防止対策を十分に行って、公開講座「育てて食べよう美味しい夏野菜 家庭菜園のツボ2022-1」、ジュニア公開講座「牛について知ろう-牧場で学ぶ畜産-」、農学部公開講座「果物の熟度について考えてみよう-ブドウの物理量計測実験-」を対面で行った。児童・生徒、一般市民に農業のフィールドや果物の物理量の計測を実際体験する機会を提供するとともに、農学とSDGsの広報に努めた。
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
1 産学官連携による共育共創活動を通じた教員の教育研究の活性化とリカレント教育の充実を図る。特に、産学官連携による成果発表会等で若手研究者の成果発表を促進する。 2 WTT教員のテニュア取得に向けたサポート体制を充実させるとともに、新たな女性教員採用やポストアップの準備を行うことで、ダイバーシティ&インクルージョン展開を加速させる。女性教員数10名増員(R5年度達成目標値)を既に達成しているが、更に2名程度の女性教員増を目標とする。 3 特任研究助教、WTT Jr教員、寄附講座特任助教の教育研究活動を支援することで、若手教員の育成を進める。 4 若手教員の海外の教育研究機関への派遣を支援するとともに、GDP学生の受入を継続することでGDP教育への貢献度を高める。 5 法令遵守、ハラスメント防止等を徹底するための研修会等を複数回開催することで組織統制の充実を図る。	9-2-1 その他-1 その他-2	1 産学官連携による講義(4回)及び研究発表会(2回)を実施し、若手教員の教育研究力の活性化を図るとともに、県職員等に対するリカレント教育を充実させた。若手教員の成果発表会を通じた岡山県との連携実績が「JST共創の場」の採択に結びついた。 2 新たな女性教員採用を進めることで、ダイバーシティ&インクルージョン展開を加速させた。女性教員の転出があったものの、女性教員の採用を積極的に進めた結果、令和5年度には11名の女性教員が在籍することになる。内1名は創発的研究支援事業に採択され、学部支援により研究を推進させている。 3 特任研究助教、WTT Jr教員、寄附講座特任助教の教育研究活動を支援することで、若手教員の育成を進めており、令和4年度には2つの寄附講座が農学部設置されており、特別契約職員として2名を受入れて学部の教育研究に参加して頂いている。 4 若手教員の海外の教育研究機関への派遣については、コロナ禍の影響もあり令和4年度は実施できなかったが、GDP学生の受入を継続することでGDP教育への貢献を行った。 5 法令遵守、ハラスメント防止を徹底するための研修会、FD研修会、知財ポリシー研修会、産学官連携本部の情報提供等を教員会議に先立って複数回開催することで組織統制の充実を図った。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。